

ムササビは、ほぼ完全な夜行性の哺乳類です。私の今までの観察ですと、営巣中の親の場合、日没後 30 分～60 分で巣箱を出て、そのまま一晩中外で活動します。外での主な仕事は、自分の食べ物を集めることです。たとえばムササビの好物の一つに「マツボックリ」があります。ムササビの巣箱がある私の山荘の裏庭には、大きなアカマツの樹が何本もあり、大量のマツボックリが実ります。マツボックリはマツの果実（球果）です。ムササビの成獣は、球果の中の種子だけでなく、球果そのものも好んで食べます。食べたあとは、中心の硬い「芯」だけが残ります。ムササビの食べ残しのこの芯は、その形状から「エビフライ」と呼ばれています。地面にエビフライがたくさん落ちていたら、ムササビの生活圏の可能性があります。

親ムササビは、夜間に森を飛び回って、未明（午前 3 時～4 時）に巣に戻り、授乳など少し子の世話をしたあとは、昼間はひたすら爆睡しています。ところが子は夜間にあまり動き回っていないので、昼も元気です。爆睡中の親のお腹の上で、大暴れしています。時々親の口元を吸っているのは、餌をねだっているのでしょうか。親の脚をかじる行動もよく見られます。親は「疲れてるのよ、眠らせて！」とばかり、時々子を払いのけています。私が観察している限り、昼間の子は、寝ている時間よりも動き回っている時間のほうが長いようです。

さて、ムササビの成獣は丸顔で、ネズミの仲間というよりネコに近いツラガマエです。しかし子は細おもてで、なるほどネズミに近い顔つきです。しかし時々見せる「飛膜」で、ムササビの子とわかります。

（北軽井沢／東京から遠隔観測）

北軽井沢ネットワーク (<https://www.kitakaruzawa.net/>)
技術提供：(株)まえちゃんねっと (<https://maechan.net/>)

